



2019・10・21

第 354 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 安倍改憲の執念に負けない9条守る決意

### 草の根の運動の広がり確信

【埼玉県さいたま市緑区／九条の会緑区連絡会】 <市民のあいだにも広がる警戒心> 緑区連絡会は10月9日、東浦和駅と美園駅で「9の日」宣伝を行いました。6つの「会」から22名が参加、久しぶりに50筆を超える署名（53筆）を集めることができました。一度は通り過ぎた女性が「私には3人男の子がいるので」と引き返し家族分5筆署名してくれたり、「大変だが、がんばろうね」「安倍首相を倒さなくてはね」と励ましてくれた方…安倍首相の度重なる9条改憲発言に対する警戒心の現れを直に伺うことができました。

<「オール緑区の会」3万筆目標達成して参院選をたたかう> 連絡会は「3000万人署名」では地域ポストイン訪問・駅頭・スーパー前で約6,500筆を集め、有権者の3割をめざす「オール緑区の会」3万目標達成に貢献、また7月の参院選では宣伝カーを連日運行して「政治は変わる」「選挙に行こう」「野党は共同」を区内全域によびかけました。こうした努力も実り埼玉選挙区

### 安倍首相、「9条改憲論議」に執念

安倍首相は内閣改造と自民党役員人事で徹底した「改憲シフト」をしき、「憲法改正推進遊説・組織委員会」など地域に根ざした運動めざし新しい機構もつくるなど、文字通り党をあげて画策を展開しています。

こうしたなか、国民民主党が予算委員会で改憲問題を取りあげ、玉木雄一郎代表が、「本当に円満円滑にやるのであれば、今の自民党の条文イメージ案、特に9条の改正案は取り下げませんか、一旦」と9条取り下げを条件として提示しました。これに対して安倍首相は、「9条に自衛隊を明記するということは、大変、大切なことだと思っていますから、それをご議論いただきたいと思っていますが、まさに憲法審査会でご議論いただく」とあくまでも9条改憲案を憲法審査会で論議すべきと主張しました。

一時も警戒を緩めることなく監視と抗議の活動を強めていく必要があります。

4議席中2議席を立憲野党（立憲・共産）で占めることができました。

＜「上映会と平和の集い」に立憲民主と共産の代表が壇上に＞ 9月29日、九条の会緑区連絡会も参加する「オール緑区の会」は、安倍9条改憲NO!の世論をさらに大きく、草の根から「野党共闘」の機運をつくろうと一「上映会と平和の集い」を行いました。400枚を超えるチケットを普及、会場には260名が参加しました。

憲法前文の朗読が心にしみる「誰がために憲法はある」の上映のあと、各九条の会や参加団体のタペストリーが壇上いっばいに飾られるなか、立憲野党の武正公一前衆院議員（立憲民主）と伊藤岳参院議員（共産）が揃って壇上に上がり、それぞれから「安倍9条改憲反対」「野党共闘で安倍政権を退陣させよう」と力づよい決意表明。

参加者からは「市民と野党の共同の姿に感動」「立憲民主が参加して広がりがあった」「地域に根ざした運動が広がっている、すばらしい」など20名を超える感想が寄せられました。

まだ曲折はあると思いますが、さらに「3000万人署名」を軸に「市民と野党の共同」を強め、次の総選挙で野党統一候補の実現と勝利めざして力を合わせたいと思います。（九条の会緑区連絡会 大石一之）

## 「ここからが勝負」と決意

【京都府／憲法9条京都の会】 憲法9条京都の会は5日、龍谷大学深草キャンパスで講演会と全体会議を開き、300人が参加、渡辺治・一橋大学名誉教授が参院選後の安倍政権の動きについて講演しました。

渡辺氏は、安倍首相が改憲を正面から訴えた参院選で、改憲勢力の3分の2を阻止

したことに触れ「ここまで追い込んだ。しかし大幅に割らせて、安倍政権に改憲をあきらめさせるところまではしていない」と強調。

安倍政権が改憲へ向けた強行路線を変更して、野党を改憲勢力に取り込むため憲法審査会で審議させ、改憲手続き法の論議を先行させるなどのねらいを告発、「ここからが勝負。相手も草の根のたたかいを日本会議系に担わせるが、野党協調路線への不満や亀裂も生まれる。もう一度、たたかいを再構築し、自衛隊明記の改憲の狙いを徹底して学習し、知らせていくことが必要だ」と訴えました。

京都の会事務局長の奥野恒久・龍谷大学教授が報告・提案し、学習会や宣伝の強化をよびかけました。

## 草の根の活動こそ勝利のカギ

【奈良県生駒市／憲法九条の会鹿ノ台校区

区】 憲法九条の会鹿ノ台校区は13日、第14回平和のつどいを弁護士の宮尾耕二氏を迎えて開き、約80人が参加しました。

宮尾氏は、日本国憲法の平和理念と自民党改憲案の狙いについて説明。会場からの「憲法審査会が始まると9条が変えられてしまうという焦りがある」との質問に、「地域で運動を広げることができれば勝つことができる。憲法を支えるのは国民です。がんばりましょう」と述べました。

女声合唱コールメープルが「ゴンドラの歌」などを披露、憲法9条をテーマにした「約束のうた」を全員で歌いました。

安倍改憲の怖さ、学習で実感

【仙台市宮城野区／鶴ヶ谷地域九条の会】 鶴ヶ谷地域九条の会では年 5 回、市民センターの会議室等をお借りして学習講演会を実施しています。今回は弁護士九条の会メンバーであり、みやぎ憲法九条の会の宇部雄介さんに講師をお願いしました。

当日は水道民営化シンポジウムや町内会の行事等と重なったことで参加者は 18 人と少なかったのですが、宇部弁護士の講演内容がたいへん分かり易く、自民党がこの春決めた案に沿って改憲がなされたら、大変なことになることが実感できました。

講演終了後、参加者と講師との質疑・応答が、学習会終了予定の時間を大幅に超えて熱心に行われました。

次回は参加者の中から意見が出された「選挙意識を高めるにはどうすればいいのか？」をテーマに 12 月にシンポジウム形式で開催することを決めています。(Eメールニュース「みやぎの九条」) NO308)

## 性の多様性認め合う社会に

【高知県／女性「九条の会」高知】 女性「九条の会」高知は 5 日、高知市で発足 14 周年つどいを開き、約 50 人が参加。

徳平時代表が、安倍首相が臨時国会の所信表明演説で改憲の議論を呼びかけたことを批判し、「学習と行動で 9 条を変えたらいかんの声を広げよう」と呼びかけました。

県教組女性部は、母性保護の権利などを知らせていく取り組みなどを報告。高知市春野町の「憲法九条を守る会・はるの」は募金も呼びかけて、2ヶ所に設置している大型看板の立て替えや保守に取り組んでいることなどを報告しました。

県立大学の長澤紀美子教授と高知ヘルプデスクの浜口ゆかり代表が「SOGI (ソジ=性的志向・性自認) と人権一性の多様性を認め合う社会づくりのために」と題して講演。性的志向と性自認を理由とする暴力や差別を禁止する国連をはじめとした取り組みなどについて報告し、日本の課題として差別禁止の法整備がされていないことなどを指摘しました。

## 軍事費が福祉圧迫の社会許すな

【和歌山県／和歌山障害者・患者九条の会】 和歌山障害者・患者九条の会は 9 月 28 日、和歌山市ふれ愛センターに 20 名が集い、「秋の学習会」を開催、参議院選挙後の情勢について学びました。

憲法九条を守るわかやま県民の会の坂本文博先生を講師に迎え、「安倍九条改憲のねらいと改憲阻止の展望」のテーマでお話され、9 条改憲の狙いは日本を守るためではなく、海外で戦争する米軍を守るためです。もし 9 条が変えられてしまうとどんな世の中になるのでしょうか。軍事費が増大して福祉が圧迫され、軍事優先の社会となります。軍法の制定や徴兵制なども将来出てくるだろうとのこと。「国民投票法は改憲勢力に有利にできているので、絶対に改憲発議を許してはならない」と強調されました。2015 年の戦争法成立で「安倍 9 条改憲 NO！」のスローガンで市民と野党の共同が生まれ、7 月の参議院選挙では改憲勢力 3 分の 2 を割り込ませることができました。7 月の世論調査では、安倍首相の下での改憲は軒並み「反対」が「賛成」を上回っています。それでも安倍首相は「必ずやり遂げ

る」と意気込んでいます。今まさに綱引き状態にあります。「運動し続けることが世論を作っている。反対が多数派である限り改憲はできない」と力強く締め括られました。

学習合の後、JR和歌山駅前で、3000万筆の集約をめざす「安倍9条改憲NO！憲法を生かす全国統一署名」行動を行い、10名が参加して約45分で42筆を集めることができました。（会の野尻誠さんより「九条の会・わかやま」383）

## 自衛隊のフェスタ出展に抗議

### 【鳥取県湯梨浜町／湯梨浜9条の会】

湯梨浜9条の会は6日に開かれた第1回ゆりはま商工フェスタに自衛隊が出展したことに対し、会場で町商工会に抗議し、今後は自衛隊の出展を中止するよう求めました。信原和裕会長、福本厚子事務局長らが町商工会の中島守会長に申し入れました。

同フェスタには民間の事業者らが出展し、親子連れでにぎわいました。自衛隊のテントでは曲芸飛行チーム「ブルーインパルス」のVR（パーチャル・リアリティー）体験が行われたほか、「はたらく車」コーナーには自衛隊の軽装甲車と偵察用オートバイが展示され、自衛隊員が子どもたちを軽装甲車の銃座に乗せていました。

中島会長は「申し入れの件は持ち帰って検討する」と答えました。

## 報告 3000万人署名で全戸訪問

【神奈川県／安倍9条改憲反対・市民アクション厚木・愛川・清川の会】 9月29日（日）、「3000万人署名のローラー作戦を行いました。場所は三田地区の戸建て住宅

約200軒です。この行動の4日前に、カラー版3名連記の署名用紙に、署名のお願いと近日中に署名をいただきに伺う旨のメモを挟み込み、3人でポスティング。

当日は10時に集合、参加者12人で5つのグループをつくり、区分け地図で訪問エリアを確認。留守宅へのポスティング用意として、「憲法九条を変える本当のねらいとは？」というQ&A式のチラシに「署名ご記入済みの場合は下記に電話を、あるいは下記に郵送をお願いしたい」旨のメモを添付したものを用意しました。

また、署名してくださった方には今後のつながりをつくるため、ぜひ「あつぎ・九条の会」のニュース読者になってもらおうと、あつぎ・九条の会入会リーフと九条の会ニュースも準備しました。

訪問軒数158軒、留守76軒、対話が82軒、署名18軒24筆、そして九条の会への入会が3世帯6人という結果でした。

事前に配布した署名用紙に記入して待っていたお宅もありました。署名お断りの方の理由は、「戦争などおきない」「何のことかよくわからない」「自分には関係ない」などでした。留守宅配布用のQ&Aチラシを渡しましたが、読まないからと断られたお宅もありました。

こういう現伏のもとで、もし改憲発議が強行されこのまま国民投票になだれ込んだら大変なことになると実感しました。

安倍首相は改憲に執念を燃やしていません。私たちは、今こそ全力を発揮して地域に対話を広げ、そのスピードアップをはかり、何としても改憲発議をさせない世論をつくりだしましょう。（山本幸子「あつぎ・

九条の会」 N o 156)